

角田富士夫研究員 「地盤工学会北海道支部賞」を受賞

寒地地盤チーム

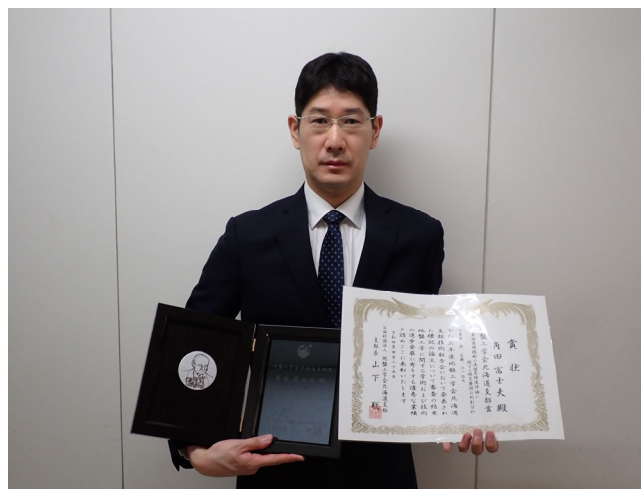
寒地地盤チームの角田富士夫研究員が、令和4年4月25日に開催された（公社）地盤工学会北海道支部総会において、「地盤工学会北海道支部賞」を受賞しました。

この賞は、年に1度開催される地盤工学会北海道支部技術報告会において発表した論文のうち、地盤工学に関する学術および技術の進歩発展に寄与するものに授与されます。今回、受賞となったのは、第62回技術報告会（令和4年1月28日～29日にオンライン開催）において、角田研究員が発表した論文「直接基礎橋脚の洗掘危険度評価に関する被災要因の判別分析（共著者：林宏親、江川拓也）」です。

台風や豪雨の経験が少なかった北海道では、平成28年8月に観測史上初めて1週間に3つの台風が相次いで

上陸し、道路橋の橋台の背面地盤の侵食、洗掘、流失による落橋被害のほか、直接基礎形式橋脚まわりの洗掘に起因する沈下被害が多発するなど過去に経験したことのない災害が発生しました。本論文は、異常出水で洗掘が急速に進行する橋梁被災を未然に防ぎ、要注意橋梁を簡易的にスクリーニングするため、北海道内の過去の洗掘に起因した直接基礎形式被災橋脚を対象に数量化理論Ⅱ類分析を行い、洗掘被災に影響を及ぼす要因を定量的に明らかにしたものです。この成果は、橋梁の防災・減災技術の向上に大きく寄与すると高く評価され、今回の受賞に至りました。

（文責：林 宏親）



地盤工学会北海道支部賞を受賞した角田研究員